



彦根城を  
世界遺産に

ひ  
こ  
ね  
じ  
よ  
う  
を  
せ  
か  
い  
い  
さ  
ん



# これが彦根城だ！

彦根城の中にあるそれぞれの資産を次のページから紹介しています。



にし まるさんじゅうやくら  
西の丸三重櫓 → 5ページ

けやき ことん  
槻御殿 → 8ページ

げんきゅうえん  
玄宮園 → 9ページ

てんしゅ  
天守 → 3ページ

おもて ことん あと  
表御殿跡 → 7ページ

うもれぎのや  
埋木舎 → 14ページ

さわ くち たもん やくら  
佐和口多間櫓 → 6ページ

はんこう こうどう かん あと  
藩校弘道館跡 → 11ページ

たいこもん やくら  
太鼓門櫓 → 5ページ

てんびん やくら  
天秤櫓 → 6ページ

きゅうざい こうやしき ながやもん  
旧西郷屋敷長屋門 → 13ページ

こん き かい かん  
金亀会館 → 11ページ

江戸時代は、外堀までの範囲が彦根城でした。

彦根城は、今から400年ほど前、江戸時代の初めに、井伊家の城として築られました。彦根城といえば国宝の天守が有名ですが、それだけではありません。櫓、門、石垣、堀、御殿、庭園、藩校、武家屋敷などの、江戸時代の城にあった建物や遺跡が残っています。彦根城は、このようないろいろなものが残っていて、江戸時代の城の全体像が最もよくわかる城です。

つじぼんしよ  
辻番所 → 14ページ

そとぼり どの い あと  
外堀土塁跡 → 6ページ

0 100 200 300m



# てんしゅ 国宝 天守



彦根城天守

城の中心にそびえる3階建ての建物です。井伊家がこの地域を治める殿様(城主)であることをあらわすシンボルとして、大切な建物でした。現在は、彦根のシンボルとして、たくさんの市民に親しまれています。

## みどころ



大きな飾り屋根(破風)を複雑に組み合わせた美しいデザインが特徴です。天守を目立たせるための工夫です。



天守は、人が住むところではありませんでした。殿様のよろいかぶとなど、井伊家にとって大切なものが保管されていました。



3階の窓からは、彦根の城下町や琵琶湖、佐和山、伊吹山など、殿様が治める領地を眺めることができます。

## ちょっとものしり!

江戸時代には、およそ100の城に天守がありましたが、明治時代に取り壊されたり、戦争で焼けたりしたため、現在残っている天守は12しかありません。そのうち彦根城天守を含む5つの天守が国宝に指定されています。

# 城を守るしくみ

江戸時代の彦根城は、内堀・中堀・外堀という三重の堀に囲まれていました。現在は、内堀と中堀がほとんど当時のまま残っています。外堀は大部分が埋められてしまいましたが、土塁(土を固めてつくった防壁)が残っているところがあります。



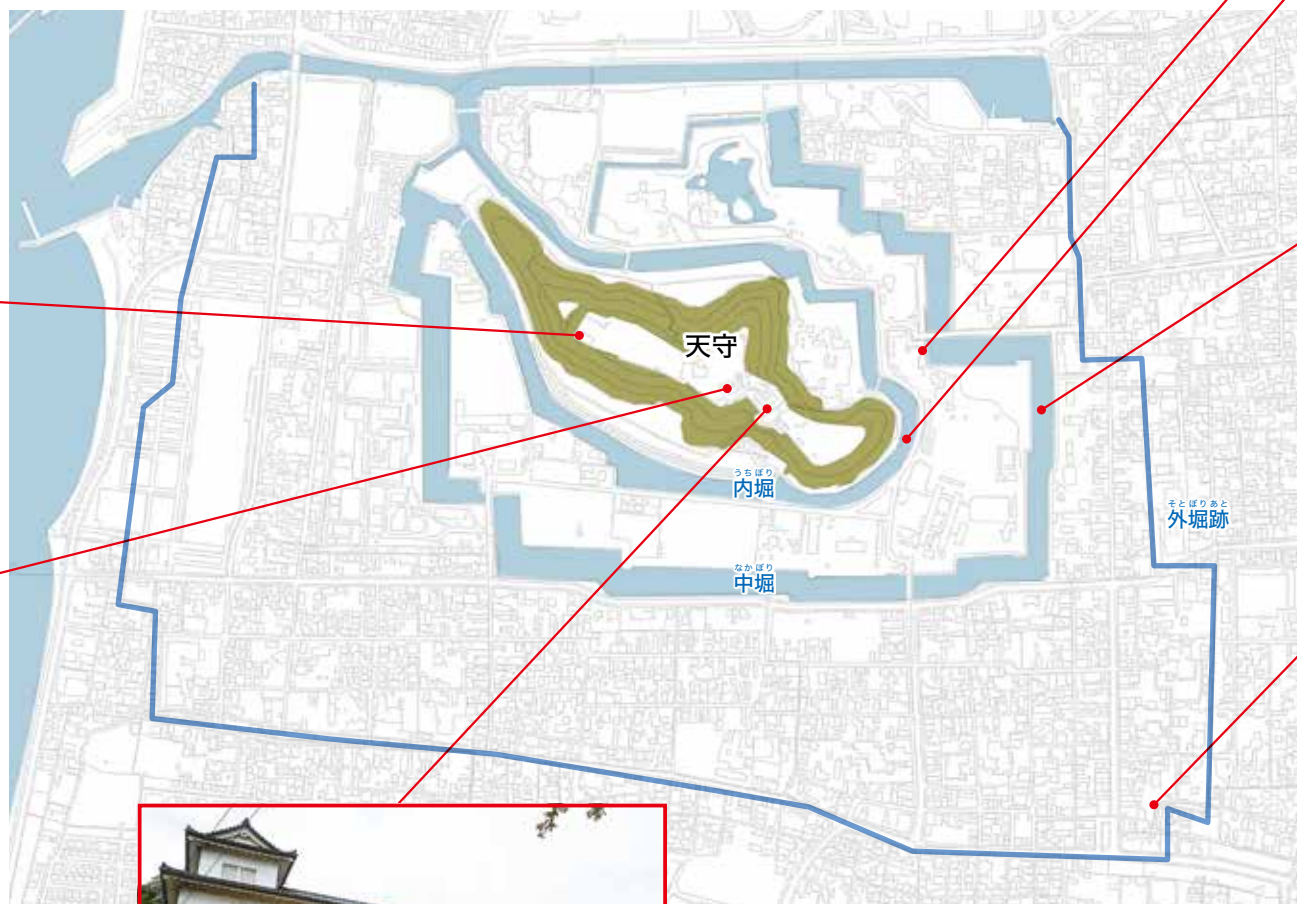
重要文化財 佐和口多聞櫓



内堀



重要文化財 西の丸三重櫓



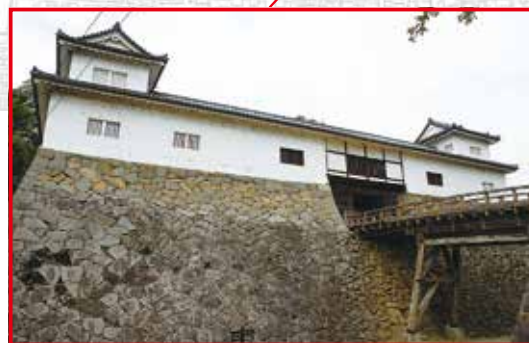
中堀



重要文化財 太鼓門櫓



外堀土塁跡



重要文化財 天秤櫓

城の大切な場所には櫓が建てられ、見張りをしたり、門を守ったりしました。現在は、4つの櫓が残っています。

## 行ってみよう!

現在の中央町には、外堀の土塁が残っているところがあります。江戸時代には、このような土塁が城を取り囲んでいました。実物を見て、高さを実感してみましょう。

# おもてごてんあと 表御殿跡

江戸時代の初め、城山の東のふもとに、殿様（城主）が暮らす表御殿が建てられました。表御殿には、家臣がやってきて、殿様といっしょに政治を行いました。明治時代の初めに壊された表御殿跡には、現在、江戸時代の建物を復元した彦根城博物館が建てられています。

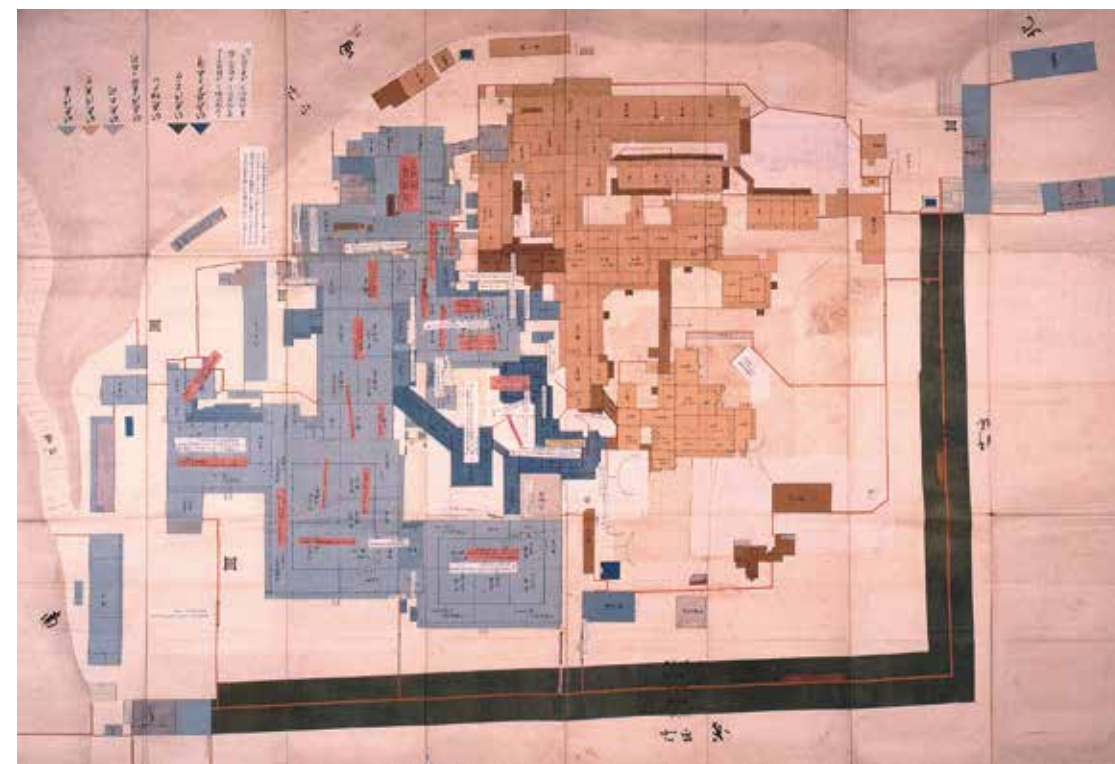


上空から見た表御殿跡(彦根城博物館)



## 市指定文化財 能舞台

彦根城博物館には、江戸時代に殿様と家臣がいっしょに狂言や能を観た能舞台があります。城の中にほんものの能舞台が残っているのは、ここだけです。



表御殿の絵図(彦根城博物館蔵)

表御殿は、殿様と家臣が政治を行った表向き(青色)と、殿様が暮らした奥向き(茶色)に分かれていました。彦根城博物館では、奥向きの建物が復元されています。

## ちょっとものしり!



彦根城内には、表御殿とは別に、殿様や家族が使う槻御殿がありました。槻御殿は、玄宮園の西側にあります。現在は、楽々園と呼ばれており、ほんものの建物が残っています。

楽々園御書院棟



げん きゅう えん

# 玄宮園



江戸時代の玄宮園を描いた絵図(彦根城博物館蔵)

彦根城の中に作られた庭園です。美しい景色を楽しむことができるだけでなく、武士ならではの工夫や施設がたくさん隠されています。自由に野山に行けなかった武士たちが、庭園に野山を表現し、そこを舞台として、いろいろな活動を行いました。

## みどころ



玄宮園には、馬場が作られました。殿様(城主)が乗馬の練習に励むとともに、家臣を招いて「やぶさめ」なども行われました。どこが馬場か、探してみましよう。



水田では、殿様が田植えや刈り入れを行いました。農業を大切に、豊かな収穫に感謝することも、武士の大切な役目でした。



庭園には、石山寺など琵琶湖の周りの多くの名所が表現されています。そうした名所を巡りながら、和歌や俳句をよむことも、武士の楽しみでした。

## ちょっとものしり!

江戸時代には各地の城下町や江戸(東京)の町に、こうした庭園が数多く作られ、「大名庭園」と呼ばれています。大名たちは、それぞれ「見どころ」を工夫し、絵図にするなど、互いの庭園を競い合いました。

# ばんこうこうどうかんあと 藩校弘道館跡

ばんこう えどじだい  
藩校とは、江戸時代につくられた、武士が勉強するための学校です。  
彦根では、15歳から30歳まで、世の中を治めるために必要な<sup>がくもん</sup>学問や  
心構え<sup>こころがま</sup>を学んだり、<sup>ぶじゅつ</sup>武術の練習をしたりしていました。現在、藩校の跡地  
は西中学校のグラウンドになっています。



現在の弘道館跡(西中学校グラウンド)



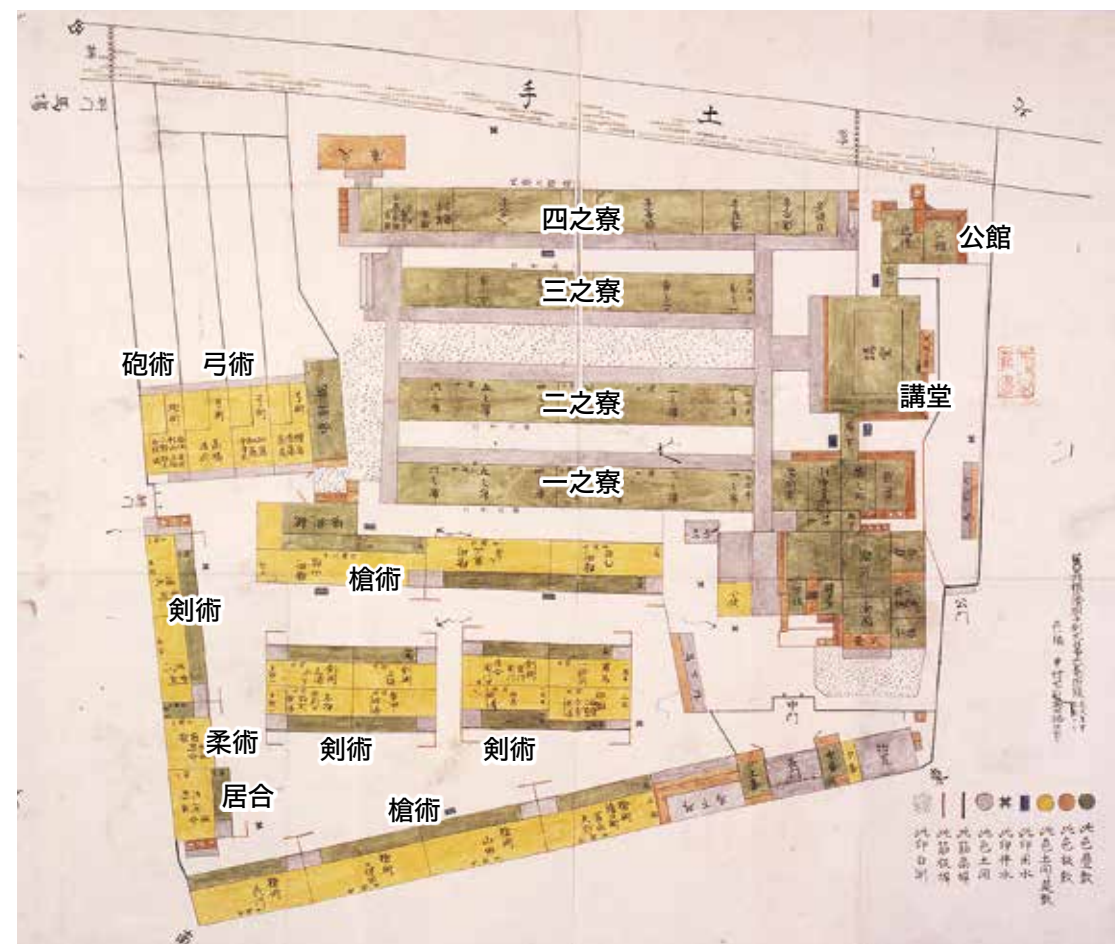
講堂跡の発掘調査の様子



## 市指定文化財 金亀会館

弘道館の講堂<sup>こうどう</sup>だった建物は、1923年に移築<sup>いぢく</sup>(※)され、現在の中央町に残っています。藩校の建物が残っているのは、とても貴重です。

※移築…建物をバラバラにして、別の場所でもう一度建て直すこと。



江戸時代の藩校を描いた絵図(彦根城博物館蔵)

- 講堂<sup>こうどう</sup>▷開講式などの集会を開いたり、生徒の進級試験<sup>しんきゅうしけん</sup>をしたりするところです。
- 公館<sup>こうかん</sup>▷殿様(城主)が来たときに使うところです。
- 一之寮<sup>いちのりょう</sup>、二之寮<sup>にのりょう</sup>▷15歳で入学すると、まず一之寮か二之寮に入り、習字と昔の中国の本の読み方を勉強します。勉強が進んだ生徒は、試験に合格すると三之寮に進級できます。
- 三之寮<sup>さんりょう</sup>▷本の読み方だけでなく、意味を理解するための勉強をします。
- 四之寮<sup>よんりょう</sup>▷最上級生です。自分が先生になって授業ができるようになります。
- 剣術<sup>けんじゆつ</sup>、槍術<sup>そうじゆつ</sup>、弓術<sup>きゆうじゆつ</sup>、砲術<sup>ほうじゆつ</sup>、柔術<sup>じゆうじゆつ</sup>、居合<sup>いあい</sup>などの道場があり、師匠<sup>ししやう</sup>に教わりながら練習をしました。馬術や水泳は、藩校の外で練習をしました。

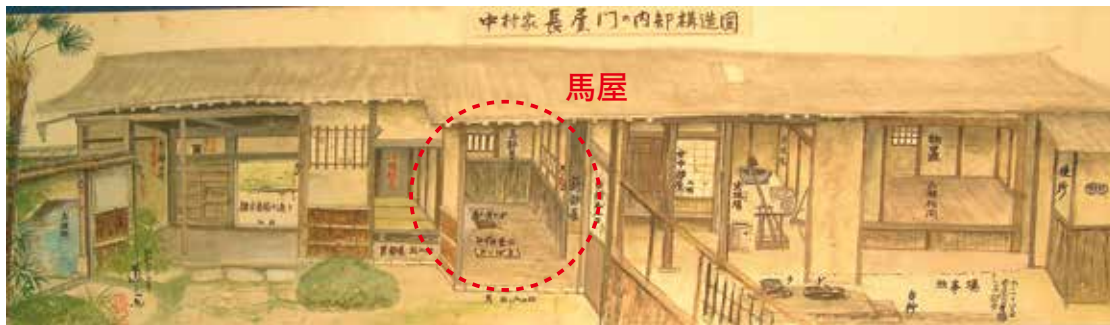
# ぶげやしき 武家屋敷

彦根城の築城にともなって、天守の近くに、たくさんの武家屋敷がつけられました。江戸時代の彦根城下町には、武士とその家族が約2万人暮らしていました。



ししていぶんかざい  
市指定文化財  
きゅうさいごうやしきながやもん  
旧西郷屋敷長屋門

彦根城の内堀と中堀の間に、家老を務めた西郷家の屋敷がありました。長屋門や塀などで囲まれていて、外から屋敷の中を見ることができませんでした。



ばんばいちようめ きゅうなかわらやしきながやもん うえだみちぞう  
馬場一丁目にあった旧中村屋敷長屋門の様子(上田道三画)

長屋門には、武家屋敷で働く人たちの部屋や、侍が乗る馬をつないでおく馬屋がありました。

## うもれぎのや 埋木舎

井伊直弼が17歳から32歳まで暮らした屋敷です。尾末町の中堀沿いにあります。直弼は、ここで、武術のほか、茶道や禅などの修業を行って、立派な武士になりました。



外から見た埋木舎



埋木舎の建物



埋木舎の部屋(居座敷)



行ってみよう!

ししていぶんかざい  
市指定文化財  
きゅうひこねはんあしがらくみつじばんしょ  
旧彦根藩足軽組辻番所  
(善利組)

せりがわぞ あしがら  
芹川沿いには、足軽の屋敷が残っています。辻番所はまわりを監視する施設です。









編集・発行

ひこねしきょういくいんかいじむきょくぶんかざいぶ  
彦根市教育委員会事務局文化財部

ひこねじょうせかいいさんとうろくすいしんか  
彦根城世界遺産登録推進課

〒522-0001 彦根市尾末町1-38 彦根市民会館内  
TEL.0749-26-5834 FAX.0749-27-3554

平成29年(2017年)3月